

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600127		
法人名	医療法人社団千葉医心会		
事業所名	グループホーム島田		
所在地	千葉県八千代市島田40-32		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和4年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の施設行事や毎日のレクリエーション活動を通じて利用者様のADL保持や向上を目指しております。日課としている毎日の散歩などの時には最近では地域の方々から気軽にお声をかけていただき利用者様と世間話をされている姿も見られるようになってきており、このような地域の方たちとのふれあいを今後も大切に続けていきたいと思っております。生活面では利用者様の自立支援を基本とし職員は利用者様の自発的な行動を見守りながらご本人がご自分でやりたいことが出来るよう本人の意思決定が表現できる生活の場に来出来るよう努めております。コロナ禍の現状において面会制限をせざるを得ない中、ご家族には毎月、居室担当より直筆のお手紙と利用者様、個々の日常生活や行事の様子を写真に収め毎月送付しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「地域とのふれあいを大切にしながら家庭的であふれる笑顔の場所にしよう」として、ホーム内に掲示し周知している。利用者は、おやつやカレンダーを職員が見守りながらつくったり、多くの人は食器洗いなどに参加している。残存機能の活用を促すよい取り組みだと思われる。外出支援として紅葉ドライブ、墓参り同行、外食などもコロナ感染が落ち着いた時期に、安全に配慮し実行している。脳トレ、ストレッチ体操、風船バレーや庭での花火鑑賞、バーベキュー大会など、多彩なレクリエーションで利用者の生活の充実に努めている。コロナ禍以前は地域との交流が盛んで、防災訓練や夏祭り、敬老会などにも参加をしていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見やすい場所に提示し、いつでも確認できるようにしています。職員会議や学習会で運営理念を実現できるように話し合い散歩などでも地域の方々に積極的に挨拶をして交流を深めるようにしています。利用者様が笑顔で生活が送れるよう支援しています。	理念は「地域とのふれあいを大切にしながら家庭的であふれる笑顔の場所にしよう」として、ホーム内に掲示し、パンフレットにも記載している。管理者は「笑顔が見られるように」として、利用者の得意なことやできることを把握して、できる限りやろうとしていることを止めないように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の防災訓練に参加するなど交流を深めております。散歩などでは地域の方々に会うと積極的に挨拶をして、時には声を掛けられ立ち止まって世間話を楽しまれております。	自治会の防災訓練に参加している。また、自治会からの呼びかけのあった、移動スパー出かける予定である。コロナ禍後には、以前のようにボランティアや中学生の職場体験を受け入れ、近隣住民が多数参加していた津軽三味線演奏会も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でAEDが設置してあることや認知症サポーター養成講座の開催、認知症ステップアップ講座の受講生受け入れをしていることを周知しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の現状の報告、介護相談員などの意見なども取り入れて職員への対応や地域交流や協働体制づくりなどについて意見交換をしております。	今年度は書面での報告としている。メンバーは家族、民生委員、介護相談員、自治会長、地域包括支援センターである。入居者状況、職員状況、行事報告などを行っている。また、近隣へAED設置の情報を提供している。	家族はもちろんすべての参加者からの意見をもらい、ホームで検討した結果をフィードバックするなど双方向のやり取りが期待される。また、ヒヤリハット報告や事故報告などを、対策を含めて報告してもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携はメールや電話、FAXで連絡をしております。入退去についても情報や現状報告をして協力を得ております。介護相談員、地域包括支援センターにも運営推進会議参加して頂き情報交換を行いサービスに生かせるようにしています。	市の担当課とは普段からメール等でやり取りをしている。市の介護相談員や地域包括支援センターは運営推進会議のメンバーである。いずれも良好な関係を築いている。また、市の介護サービス事業者協議会の主催するオンライン研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加しての伝達講習や職員会議、学習会で身体拘束の害について学び、拘束をしない工夫やコミュニケーションの活用について話し合っております。	「身体的拘束等適正化のための指針」を策定し、身体拘束廃止委員会を3か月に1回以上開催し、研修会を年2回実施している。議事録は職員全員に回覧している。気になる言動については管理者から注意したり、職員同士でも注意している。現在、身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・適正化委員会を立ち上げ職員への周知に努めております。職員会議や学習会で日常生活の支援の中で、どのような事柄が虐待にあたるのか職員間で情報共有し利用者様の尊厳を守るように努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に、この制度を利用されている方がおり、ご相談や職員の情報が必要があれば関係者と連携が取れるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談や契約時には必ず詳細な説明をして不安なことや、ご本人ご家族の意向を聞き出して理解していただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や介護相談員来所時に利用者様の想いや意向を聞き出して理解していただけるようにしています。	玄関にご意見箱を設置している。日常的に電話や来訪時に意見を聞いており、利用者からも話を聞くようにしている。介護用消耗品の使用に関する意見があり、検討して改善した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で議論された内容によっては管理者会議などで他の事業所の意見を聞いて運営に反映しています。	月次の職員会議で意見交換している。会議では全員に話してもらうこととしている。個人面談も年に1回おこなっている。職員の意見を反映して、職員の業務の偏りや休憩時間の調整などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の報告を受け職場内での環境や勤務状況を把握して職員の補充など働きやすい環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や他施設との事例検討会への参加、外部研修で学んだことを学習会で伝達講習を行い職員全員が情報を共有し学びスキルアップが図れるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流の中で情報交換が出来るようになりケアのあり方や各種サービスの質の向上に取り組んでいます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談や施設見学時には意向や心配事、不安要素に耳を傾け様子を見させていただきホールで他の利用者様とお茶を飲んだり談話をする機会を設けて施設の雰囲気を感じていただけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、まずは施設見学をしていただき生活の様子や雰囲気などを感じていただき、そのうえで疑問や不安、要望などに耳を傾けご理解や信頼を得られるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談や施設見学時には意向や心配事、不安要素に耳を傾け様子を見させていただきホールで他の利用者様とお茶を飲んだり談話をする機会を設けて施設の雰囲気を感じていただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に応じて日常生活の中で出来ることを一緒に行ったりできないことは協力しながらご本人ができるように支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には一緒に時間を過ごせるよう環境を作ったり一緒におしゃべりをしたり、可能であれば散歩に同行していただいたりして生活の共有ができて有意義な時間をともに過ごせるよう配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、ご友人の方が面会に来られたり遠方から電話をかけて下さったりしております。携帯電話を所有している方もおり自由によりとりが来ております。手紙や年賀状が送られてきたり、ご家族と協力しながら今までどうり交流を図れるようにしております。	コロナ感染状況が一時落ち着いた頃に、墓参りや外食などに出かけた。現在は電話や手紙のやり取りの支援などを行っている。また、人数や時間を制限したうえで、パーティーション越しの面会を可能としている。面会時には、広い庭を家族が利用者と一緒に散歩することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で毎日の日課やレク活動を利用者同士が支えあい、助け合いながら円滑に行っていただけるよう努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には何かあれば必ず連絡をしていただけるよう説明しています。また入院中には面会に行き関係が途切れぬよう努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時やケアプラン作成時、更新時には必ず意向を聞き職員間で話し合いご本人、ご家族の希望が反映される支援を心掛けております。ご自分で訴えられない方にはご家族と職員間で情報交換をし、ご本人の視点に立ち支援しております。	入居時のアセスメントで利用者や家族の意向を確認している。入居後は、普段の会話の中から把握に努めている。また、意思疎通が困難な場合は、家族から情報をもらったり、表情から読み取ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や趣味、特技、好きなものなどを日常生活の中で聞き出したりできることを把握しながら職員間で情報共有して暮らしに取り入れております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の役割を無理なくできるよう、また持っている力を生活の中で発揮できるよう支援しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や電話で生活状況の報告、意向や要望を聞き毎日の生活の中から課題を見だして担当者間で検討を行いケアプランを作成しています。	介護計画の作成は、利用者や家族の意向を踏まえ、職員の意見や記録を参考にして、職員会議後にカンファレンスを開くなどして話し合ったうえで、作成している。また、3か月に1回のモニタリングと6か月に1回の評価により、適切な計画になるようにしている。	
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は1日の個人個人の生活の様子や状態をケース記録に記入し職員間で情報共有し実践、計画の見直しに生かすよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば行事や誕生日会などを利用してご本人のニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や個人のお買い物、お墓参り、季節の行事などを一緒に行い毎日の暮らしを楽しんでいただけるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の定期的な往診や病院受診、または必要な時にはご家族と一緒に病院受診をし対応を相談したり協力機関との連携を行い支援しております。	入居前のかかりつけ医を受診することは自由だが、ホームの母体が医療法人であることもあり、現在は入居者全員がホームの協力医をかかりつけとしている。専門医への受診はホームで同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結んでいる訪問看護ステーションと情報交換を行い状況に応じて適切な処置が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院生活が送れるよう面会に出向き慣れない環境でも治療がスムーズに受けられて早期に退院ができるよう支援しております。また面会に行った時には必ず施設職員であることを伝えて関係作りをしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人、ご家族にもしも状態が変化した場合のご本人の意思・意向(リビングウイール)や対応をお聞きして状態の変化に応じて、その都度、説明を行って話し合い意向に沿えるようにしております。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、ターミナルケアに対応する体制がある。しかしながら、法人内に介護老人保健施設もあることから、ここしばらくは、看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かして速やかに医師や訪問看護など医療連携が出来る体制になっています。事故時の対応については日頃から職員は実践できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練時には職員全員が参加できるようにして対応できるようにしています。また消防署立ち合いの訓練を実施し助言を生かせるよう心がけています。地域の防災訓練にも参加し交流を深め協力体制作りを努めています。	ホームでの訓練以外に地域の防災訓練に参加して、避難経路などを確認している。これにより近隣住民のグループホームに対する理解も進んでいる。備蓄も準備しているが、今後、地域住民分の備蓄も考えたいとしている。	昨今は想定外の災害が起きていることから、夜間やさまざまな災害を想定した訓練も期待される。また、法人としてBCPを作成中であり、完成が待たれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修や学習会の中で認知症への理解を深め利用者様一人一人の人格を尊重し思いやりのあるケアができるよう努めております。	倫理マニュアルがあり、プライバシーの保護についても記載がある。接遇・マナーについての学習会もおこなっている。ホームでは利用者の尊厳を一番大切にしており、言葉遣いにも配慮している。また、居室に入る時には必ずノックするなど、基本を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝の着替えや入浴時の服選びなどご本人の好みを聞いたりご自分で用意していただいたり利用者様のやりたいことなど無いかを職員に気軽に話せるようコミュニケーションに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がご自分の考えを生活に反映出来るように職員は常に声掛けをしながら本人のペースで毎日の生活が送れるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容できない利用者様には職員が配慮して、ご自分でできる方とは一緒に選んでおしゃれができるように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好き嫌いを把握し咀嚼や嚥下状態に応じて個別に対応しております。食事の配膳、下膳は毎日の日課の中で役割として朝夕の3食とも利用者様に行っていただいております。	通常の食事は食材業者から取り寄せているが、利用者の希望でお寿司を買って来たり、庭でバーベキューをするなど食事が楽しめるよう工夫している。また、コロナの感染が落ち着いていた時期に少人数に分かれて外食を楽しんだこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行い栄養状態の把握や水分が不足しないよう支援しております。食事時間以外でも10時と15時に提供できるようしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けを行い歯磨きや義歯の洗浄をして口腔内の清潔を保持できるようにしています。月に1回、訪問歯科の往診もあり治療や状態確認を行っていただいております。職員は歯科医からの助言を生かすよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行うという職員の意識が高い為、ご本人の状況や時間を考慮して声掛けしたり排泄の訴えや行動を大切にトイレでの排泄が自立できるよう支援しております。	個々の排泄状況を把握しており、適宜声掛けをしている。自立を支援しており、入居時に夜間はおむつだった利用者について、排泄パターンを把握して職員間で検討した結果、日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツに移行した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や体操や散歩、レク活動において体を動かしたりして便秘予防に取り組んでいます。薬剤の使用などは医師と相談し慎重に行い牛乳、オリゴ糖なども使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3名の利用者様が個別に入浴され状況を見て職員が介助に入ったり声掛け、見守りをしてご本人ペースで入浴を楽しみリラックスしていただけるよう支援しております。ご自分から入浴を希望される方には適時対応できるよう努めております。	週2回を基本としているが、利用者が「今日入りたい」と言えば柔軟に対応している。また、浴槽は一般家庭と同じであるが、状況に応じて職員二人介助で支援している。今後音楽などを流して、さらにリラックスしてもらうことも検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体力、体調を考慮し昼寝の支援などを行い夜間に十分な睡眠が取れるように日中の活動も考慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴を把握し処方内容が分かるようにファイルしていつでも確認できるようにしています。必要時にはご本人、ご家族に説明をし場合によっては服薬ゼリー等を使用して安心して服薬できる工夫もしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、得意な事、好きな事が出来るように毎日の日課として継続できるように支援しております。発言や行動等でご本人がしたい事、食べたいもの、欲しいもの等をお聞きして支援できるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて散歩や買い物、外食、ドライブ、お墓参り、畑仕事などの支援をご家族と相談しながら行っています。	コロナ禍であっても、近隣の散歩は日課としている。また、お花見ドライブに出かけたり、コロナが落ち着いた時期に少人数で外食もした。ホームの庭は広く、畑仕事をしたり、バーベキューを楽しむなど、外気に触れる機会も多い。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理ができる方はご家族と相談して自己管理をしていただき買い物や外出時には持参され自由に買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットのホールにいつでも使用できる電話があり取り次ぎにも対応しています。携帯電話を所持されている方もおり自由にご家族、ご友人に電話をかけることが出来ます。また年賀状や暑中見舞、お手紙のやりとりも行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃(利用者様と一緒に)と換気を行い清潔で居心地のいい環境を保つよう心がけています。季節の行事のお知らせ、ポスターやカレンダーなど利用者様に作成していただきホールに掲示して季節を感じる事ができるよう配慮しています。	リビングには、食卓といすの他にソファもあり、思い思いの場所で過ごせるようにしている。また、クリスマスツリーやお雛様を飾るなど、季節感も大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士が気軽に話せるように席を考慮しています。各ユニットのホールにはソファを配置しリラックスしていただけるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して使い慣れて馴染み深い家具、思い出の品物、写真を飾っていただき落ち着いた雰囲気の中で安心して暮らせるようプライバシーにも配慮しています。	各居室には、これまで使用していたダンスやドレッサー、机といす、仏壇、テレビ、家族の写真などが持ち込まれており、利用者一人ひとりが安心して暮らせる環境になっていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来ること、出来る能力を把握して最初から手を出さず、たとえ時間を要してもご自分で出来るように見守る支援を心がけています。失敗しても自尊心を傷つけず受け入れてご本人が混乱しないよう支援しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと